

いどとしの若者探訪
第2回 ひょうごのお面作家・ギター作家に聞く
vol.2 お面と仮面

神野: みたいな感じで、そうなんですよ。

井戸: 普通本心を隠すためにお面をかぶるんだけど。

神野: ええ、それで思いついたんですけど、お面と仮面とまた違うなあと言うのに気がきました。

仮面というのは自分を隠すためのもので、仮の面という感じですが、お面は自分を表現する一部で、いろんな顔があるのがお面だになっていうことに気がきました。

井戸: なるほどなるほど。それはすごい発見！

神野: それでいろんなところで得意げに言っているんですけど。そこでお面に出会ってしまって、ずっとお面をかぶった人を描いていたんですよ、大学の頃に。

卒業してから、ちょっとそれだけじゃ物足りないから、お面を作ってしまうおうと。

井戸: それで材料は何なんですか？

神野: これは土台、つまり裏側が和紙で出来ているんです。

井戸: ずいぶん軽い物ですね。

神野: そうなんです、和紙だから。盛りあげるのは軽い粘土。

井戸: 軽い粘土を貼り付けて？

神野: はい、貼り付けて。

井戸: 和紙は結構丈夫なんですよ。

神野: あ、そうなんです。木の繊維で作ってるから。

井戸: つないでいるから。

神野: 繊維がまた長いので、漉いてるときにこう絡まるんです。そしたらなかなか離れなくなって、すごく丈夫な感じになるので。いくらほぐしても。

井戸: だって、和紙のね、羽織袴なんてのがありますよね。

神野: ありますね、カミコとか言うのが。作ろうとおもったけど、僕なかなか作れなくて。

井戸: あーそれはなんか技術がいるみたい。

神野: いるんです。いいなと思って。

井戸: 話がどんどんずれていっちゃうんだけど。そうですか。仮面とお面は違うというのが、これ、いい言葉ですね。あわせて自分の本質を表すのがお面で、隠すのが仮面。

神野: はい。仮面は作らないでおこうということで、お面作家に。

井戸: だけどそういえば能なんかもどちらかという、その人柄を凝縮して。

神野: 現したものですよね。

井戸: それこそお面ですよ。それをかぶることによってその人柄を表す訳ですよ。

神野: ええ、そうですね。そうか、気がついてなかった。

井戸: 通じているんですね。

神野: 伝統芸能に通じてる訳ですか。今奥が深いことに気がきました。僕のお面も奥が

深かったんだ..

井戸:奥が深いんですよ。